

## 南フランスの旅

H29.3.24 林興一郎

一昨年秋、南フランスをツアーで旅しました。サンポール・ド・バンス、エクサン・プロバンス、アルル、レ・ボー・ド・プロバンス、ポン・デュ・ガール、アビニオンを順に見て、最終日にはるかスペインに近いカルカソンヌまで往復するという、3日間の効率的なツアーです。その後、TGVでパリに移動して、パリで2日間の自由行動というのも魅力的でした。

10月19日の夜、ニース空港に降り立つと出迎えの現地旅行会社の人から、今回のツアー参加者は我々夫婦だけと聞かされ、驚き、ラッキーとも寂しいとも感じました。秋も遅い、ツアーの最終回で、他の旅行会社経由の参加者はなかったと思われま

さて、翌朝、早速、迎えの車にガイドの日本人女性とドライバーが乗って、ベンツのセダンで、後部座席は、3人掛け、向い合わせの6人席を我々が、占有して出発しました。先ず、サンポール・ド・バンスへ。ここは山腹に小ぎれいな店や住宅が並ぶ芸術家の町、観光の町で、山頂にシャガールの墓がありました。山を下って、カンヌの海岸を散歩して、一路、エクサン・プロバンスへの高速道を毎時130kmで飛ばします。ツアーが多人数だとバスでの移動になるので、制限速度は毎時100km、今回、時間が稼げるので、希望があれば言って下さいとのガイドの言葉で、早速、夕方着く予定のアルルの闘技場を傍で見るだけでなく、上に登りたいと希望しました。エクサン・プロバンスの画家、セザンヌが何度も描いたサンビクトワール山は見えるかと聞くと右手に遠く、石灰岩質の白い山が横たわっているのを教えてくれました。エクサン・プロバンスのミラボー通りをぶらぶら歩いて、ワイン屋に入り、シャトー・ヌフ・ド・パープを買いました。これは、アルフォンス・ドーデの「風車小屋便り」を読んで知ったものです。時間の余裕があるので、セザンヌゆかりの場所があるかと聞くとアトリエに連れて行ってくれました。木立に包まれた建物の中に、おなじみの絵の題材の器、ビン、ドクロなどが置いてありました。

アルルに着くと、先ず、ゴッホが描いた跳ね橋のたもとを見物、次いで、古代ローマ遺跡の闘技場、ツアー予定では午後6時のところ、4時に着きました。闘技場の頂上からアルルの町の赤い屋根の連なり、ローヌ河も近くに見えました。この闘技場では、内部に鉄製の観覧席が設置されているのが見え、闘牛を催して稼いでいるそうです。次に、ゴッホの「夜のカフェテラス」の絵の現場へ。絵に描かれた通りのカフェには、未だ夜には早く、客はいません。ゴッホの耳切り事件の後、入院していた療養所にも行きました。ここも絵でおなじみの場所です。こうして、アルルでは、ゴッホとローマ遺跡を堪能しました。

翌10月21日。アルルの近くで、車を降り、山道を少し登ると見えて来ました。アルフォンス・ドーデの風車です。10か月掛けて原文で読んだ「Lettres de mon moulin」の風車です。石ばかりの地面に思ったより小さい風車が立っていました。羽は固定され、石臼が傍に置いてありました。他には何もありません。偶然とはいえ、読んだ本の現場に来るのは感激でした。写真をしっかり撮りました。

次は、レボー・ド・プロバンス。山に車が上がると周囲は石灰岩むき出しの崖、ミストラルが吹きまくって寒い。フランスの最も美しい村と言われるが、高所から見下ろす風景は石灰岩の白と緑ばかり。余り、印象に残りませんでした。

ポン・デュ・ガールに着きました。川を跨いでそびえるローマ遺跡の水道橋。目の高さが川と同じなので、橋はとても高く見えます。スペイン・セゴビアの水道橋とどちらが大きいか、あちらは川を跨いでいなかったが、巨大でした。

アビニヨンの法皇庁をローヌ河の対岸から見ると横長でとても巨大です。内部の部屋を次々と見物するコースを行きましたが、階段の上下がきつく、家内はギブアップ、途中から引き返しました。今日は、昨日に比べて、レボー・ド・プロバンスの強風と寒さ、ポン・デュ・ガールの橋の石段、法皇庁の階段で消耗しました。

10月22日。朝、ホテルで目覚めて、今夜遅く着くパリのホテルのバウチャーを一昨日、泊まったアルルのホテルのごみ箱に勘違いで捨てたのに気づきました。日本人ガイドの女性に話したら、パリに連絡してくれて、OKとの返事で一安心。

8時出発で、毎時130kmで走り、10時半カルカソンヌ着。ここは、紀元前1世紀からの古代ローマ帝国の要塞都市。何しろ巨大な城壁の連なりと内部の城。フランスでは、モンサンミッシェルに次ぐ名勝だそうです。内部を、説明を聞きながら、ひたすら歩くだけ。昼食後、再び、高速道を延々とTGVアビニオン駅まで引き返しました。5時に着いて、ここで現地ガイドの女性ともお別れです。この女性はフランス人と結婚し、子供もあり、ガイドを30年やっているそうです。ヨーロッパを旅行すると、こういう女性にしばしば会います。タフだなと思います。

10月23日。パリのマルモッタン美術館見学。モネの美術館と言われますが、入ってすぐ、ゴッホの「種蒔く人」の大きい絵があり、人だかりがしていました。ゴッホの絵は小さいのが多いですが、これは飛びぬけて大きい。迫力がありました。次に、モンマルトルの丘に登り、記念に自分の似顔絵を描いて貰いました。出来上がりは若く描いてくれて、あまり似ていません。

10月24日。朝、バンプの蚤の市をぶらぶら。南仏の風景を描いた小額の絵を、40ユーロを30ユーロに値切って買いました。昼にサンジェルマン通りをぶらぶら。昨年、来たとき見つけたムール貝の店で昼食。

パリの2日間を思い通りに、ゆっくり過ごしました。